

# 授業への集中に導く指導の工夫

子どもたちの授業への集中困難をいかに指導したらよいのだろうか。授業場面における集中困難状態の質の違いがあったり、集中困難の原因や背景もさまざまであったりする。子どもを授業への集中に導く指導の工夫について考えてみたい。

## はじめに

ここでは、主に子どもを授業への集中に導く指導の工夫について、大きく次の2つに分けて考えられる。

授業に集中させたい「子ども」やその「保護者」への働きかけ

授業に集中させる「教師」の指導の在り方を見つめ直す

ここでは、主に の授業に集中させたい「子ども」やその「保護者」への働きかけについて述べてみたい。

「子ども」や「保護者」への働きかけ  
「子ども」とその学級への働きかけに関わるものとして次のポイントが考えられる。

### 「授業」であるという場面をつねに自覚させる

・例えば、授業の前にクラスの約束を声をそろえて唱えるとき「授業とは何か、授業でみんなが学ぶためには何が大切かを学年に応じた方法でいつも自覚させる

### 問題の状況のアセスメント（児童生徒理解）を行う

・その子の注意集中持続時間や集中困難の状況などを把握し、他の教職員などにも協力を求め、集中困難の原因の把握に努める

### 集中しやすい環境づくりに努める

・例えば、座席を壁際の前列にするなど、気が散る刺激が入りにくい位置にしたり、前後左右に落ち着いた子どもたちを配置したりする

### 授業以外での集中を授業につなぐようにする

・授業場面以外にも目を向ける。その子なりに打ち込んでいることを見つけ、学級の子どもたち紹介したり、実演してもらったりしてその子の集中力を評価し、授業場面にもつないでいく

「子ども」自身への働きかけに関わるものとしては次のポイントが考えられる。

### 子ども自身に自分の状態を自覚させる

・例えば、「～君はここまではやっているんだよ」とその子なりにがんばっている面を認めながら、自分を見つめる目を育てる

### その時間の目標を自分で決めさせる

・例えば、分でここまで取り組むという「めあてノート」をつくり、何をどのような学習方法でその目標を達成していくのかを具体的に立てさせ、成しとげた内容を振りかえさせ、自己評価させる

### 達成したことを大きく認める

・ハードルを高くせず、その子なりに少しでもできたことを言葉に出し、「めあてノート」に丸をつけたり、シールをはったりしてはっきりとほめる

「保護者」への働きかけとして考えられるのは次のポイントです。

### 保護者に子どものプラスの変化を伝えていく

・保護者なりにできることを自ら考えさせ、小さな目標を達成させるように子どもとともに一緒に励まし、認めながら働きかけていく

### 発達障害が考えられる場合には、保護者の理解を得ながら校内全体の問題にしていく

・特別支援コーディネーターなどをおして校内に投げかけ、保護者の理解を得ながら、専門機関との連携などをはかり、学年が代わっても継続した指導ができるようにしていく

### 「教師」の指導の在り方を見つめ直す

教師と子どもとの人間関係の在り方や授業に臨む教師の側にも原因がないか検討する必要がある。

また、学級が子どもにとって安心して、楽しく過ごせる場となっているか常に指導の在り方を見つめ直していく必要がある。